



### 長谷川登 Noboru `Novol` Hasegawa

近年、自然エネルギーへの畏怖と憧れをテーマにすべての生命にとって絶対的な存在である太陽の光や月、水の流れなどを象徴として表現しています。

これらはすべての生命を等しく慈しみ育てる存在でありながら同時に冷酷で非情な面を見せつけたりします。

これまで形のイメージから導き出す展開図をもとに鉄板を加工して成立させるスタイルを基礎としてきましたが、新たな視覚的要素を加えるべく透明アクリルを用いた表現にも取り組んでいます。

作品 「揺籃」  
 素材 アクリル  
 サイズ H43cm×W43cm×D24cm

### 相澤久徳 Hisanori Aizawa

時の中に存在する人を中心に、静かな時の流れを動きとして作品の形態に取り入れ、作品全体に一つのゆるやかな流れや、人の存在を感じる構成としている。

全体の流れを考え、黒御影石を中心とした立体作品とともに、レリーフを組み合わせ、石の表情の豊かさを作品に利用しながら、時を感じられるように考えた。

作品 「永遠の時をまとう」  
 素材 大理石、黒御影石、トラバーチン  
 サイズ H36cm×W20cm×D20cm



### 浜田修子 NOBUKO HAMADA

カタチと「色」と「空間」を考える。

「光」による「カタチ」の印象変化を考える。

個々の作品と展示スペース全体のイメージを考える・・・

やる事は、まだまだ無限に続きそうです。

作品 「RIBON」  
 素材 ミクストメディア  
 サイズ H73cm×W55cm×D40cm



協力 一般社団法人 日本美術家連盟

お問い合わせ先 公益財団法人 メトロ文化財団 公益事業部  
 電話 03-3253-6948 (10:00～17:00 土・日・祝日を除く)